

平成28年12月15日
於
府中市立教育センター

平成28年第12回

府中市教育委員会定例会議事録

府中市教育委員会

平成28年第12回府中市教育委員会定例会議事録

- 1 開 会 平成28年12月15日(木)
午後3時00分
閉 会 平成28年12月15日(木)
午後3時31分
- 2 議事録署名員
教育長 浅 沼 昭 夫
委 員 松 田 努
- 3 出席者
教育長 浅 沼 昭 夫 委 員 崎 山 弘
委 員 齋 藤 裕 吉 委 員 那 須 雅 美
委 員 松 田 努
- 4 欠席者
なし
- 5 出席説明員
教育部長 今 永 昇 文化スポーツ部長 五味田 公 子
教育部次長兼学務保健課長 堀 江 幸 雄 文化スポーツ部次長兼生涯学習スポーツ課長 沼 尻 章
教育部副参事兼指導室長 伊 藤 聡 文化振興課長 山 本 忠
総務課長 志 摩 雄 作 ふるさと文化財課長 江 口 桂
学校施設担当主幹 山 田 英 紀 ふるさと文化財課長補佐 渡 辺 純 子
総務課長補佐 遠 藤 公巳明 生涯学習スポーツ課長補佐 宮 崎 誠
学務保健課長補佐 大 井 孝 夫
指導室長補佐 古 塩 智 之
統括指導主事 日 野 正 宏
統括指導主事 国 富 尊
指導主事 平 井 克 行
指導主事 坂 元 竜 二
指導主事 棗 まゆみ
- 6 教育委員会事務局出席者
総務課係長 鈴 木 紘 美
総務課事務職員 國 分 真 耶

議 事 日 程

第1 議事録署名員指名について

第2 会期決定について

第3 議 案

第4 報告・連絡

- (1) 寄附の採納について
- (2) 平成28年度セカンドスクール実施結果について
- (3) 府中市生涯学習センターにおける指定管理者候補者選定委員会の設置について

第5 その他

第6 教育長報告

第7 教育委員報告

午後3時00分開会

○教育長（浅沼昭夫君） ただいまより、平成28年第12回府中市教育委員会定例会を開会いたします。

_____ ◇ _____

○教育長（浅沼昭夫君） 日程第1、議事録署名員指名につきまして、本日の議事録署名員は、私のほか松田委員にお願いいたします。

_____ ◇ _____

○教育長（浅沼昭夫君） 日程第2、会期の決定でございますが、会期は本日1日といたします。

_____ ◇ _____

◎傍聴許可

○教育長（浅沼昭夫君） 傍聴希望者がおりますので、許可してよろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） 日程第3、議案でございますが、本日、議案の審議はございません。

_____ ◇ _____

◎寄付の採納について

○教育長（浅沼昭夫君） それでは日程第4、報告・連絡ですが、報告・連絡（1）を総務課、お願いします。

○総務課長補佐（遠藤公巳明君） それでは、資料1の寄附の採納についてをご報告いたします。今回ご報告するのは1件で、学校教育活動の一層の充実・発展を図っていくために寄附されたものでございます。

寄附採納先は府中市立府中第六中学校でございます。寄附品はプロジェクターが2台、9万5,790円、スクリーンが3台、10万8,864円。寄附者は府中第六中学校50周年実行委員会委員長田口好明様。受領日は平成28年11月17日でございます。

なお、府中市教育委員会表彰規程第10条の規定によりまして、委員会が適当と認めるときは感謝状を贈呈できることとなっておりますが、本件については寄附者が感謝状受領について辞退のご意向を示しておりますので、贈呈しないことといたします。

以上でございます。どうぞよろしくお願いたします。

○教育長（浅沼昭夫君） この件につきましては、何かご質問、ご意見ございますか。よろしいですか。

それでは、報告・連絡（1）について了承といたします。

_____ ◇ _____

◎平成28年度セカンドスクール実施結果について

○教育長（浅沼昭夫君） 報告・連絡（2）を学務保健課、お願いします。

○学務保健課長補佐（大井孝夫君） それでは、資料2に基づきまして、平成28年度セカンドスクール実施結果につきましてご報告いたします。

平成28年度は5月9日から10月28日の間で実施いたしました。今年度も各小学校におきまして体験プログラムや衛生管理などさまざまな対応に取り組み、大きな事故もなく全

行程を終了することができました。

次に裏面をご覧ください。本年度の参加状況でございますが、参加人数は途中参加を含め2,029人で、在籍者2,039人に対し参加率は99.5%でした。参加できなかった児童は10人で、理由といたしましては、体調不良が6人、家庭の事情や都合が3人、骨折が1人となっております。途中参加の7人と途中帰校の5人につきましては、保護者により現地への送り迎えをしていただきました。

続きまして3枚目の学校別医療機関受診状況でございますが、前期が8件、後期が7件の合計15件で、受診理由は発熱が6件、頭痛を含む体調不良が2件、歯の痛み等が2件、切り傷が1件、まぶたの腫れが1件、捻挫が1件、急性胃腸炎が1件、喘息が1件となっております。

また、今年度につきましても崎山委員を始めとする市内の医師お二人に無償でご協力をいただき、ホットラインを開設いたしました。

なお、保健室の利用状況でございますが、利用延べ人数が651人、利用実人数が382人となっており、参加人数に対する利用実人数の割合が約19%ございました。

報告は以上でございます。よろしくお願いいたします。

○**教育長（浅沼昭夫君）** この件につきまして何かご質問、ご意見ございますか。

○**委員（崎山 弘君）** 今回も医療機関受診状況において救急車を利用した件数はございますでしょうか。

○**学務保健課長補佐（大井孝夫君）** 今回も救急車でのご利用はございませんでした。

以上でございます。

○**教育長（浅沼昭夫君）** ほかにいかがでしょうか。

○**委員（那須雅美君）** 2点ほど伺いたいと思います。1点目は、今の救急車の利用はないということですが、診療時間外の診療はないということでしょうか。2点目は参加状況についてなのですが、行かなかった児童というのは、例えば体調不良であったのが、セカンドスクール最中に体調が戻った場合というのは、通常の学校に登校しているかどうかをお聞かせいただけますでしょうか。

○**学務保健課長補佐（大井孝夫君）** まず1点目の救急車でのご搬送につきましては、基本的に近隣の病院の診療時間外の搬送は、市の職員等と学校の教員が車で搬送する形をとっております。夜間に発症した場合には、夜間に開いている病院を探しまして、そちらに搬送するという対応を現在しているところでございます。

2点目の、途中で体調が治った場合につきましては、途中参加をしており、逆に途中で病気になった場合には帰校する、という形で対応しているところでございます。

以上でございます。

○**教育長（浅沼昭夫君）** 最初の質問について、再度詳しく説明願います。

○**学務保健課長補佐（大井孝夫君）** セカンドスクールでの病気、けが等で病院に搬送する場合については、市のほうで車を1台用意して、八ヶ岳府中山荘に置いてございます。その車を利用いたしまして、学校の教員と、後半は市教育委員会の事務局職員も現地に滞在しておりますので、その職員が運転して病院に搬送するという対応を現在しております。

病院が開いている時間帯には通常搬送してございまして、夜間等で病気になった場合には、

夜間開いている病院がありますので、そちらに搬送していくという形をとっており、救急車は使わないという形の対応をしているところでございます。

○委員(那須雅美君) 今回は時間外に行った場合はないということなのですね。

○学務保健課長補佐(大井孝夫君) そういう意味では時間外のものはないということです。

○委員(那須雅美君) もう1点、食物アレルギーの児童がいた場合の対応についてはどのようになっているのかお聞かせいただけますか。

○学務保健課長補佐(大井孝夫君) 食物アレルギーのある児童に対しましては、山荘の食事でアレルギー対応をしております。また、山荘以外の外部で食事をするときなども、お店のほうと連携をとりながら体制をとっているところでございます。

以上でございます。

○教育長(浅沼昭夫君) ほかにいかがでしょうか。

○委員(松田 努君) セカンドスクールの実施期間というのはどのように決めているものなのでしょうか。学校が希望した期間にしているのか、それとも市のほうで決めているのでしょうか。

○学務保健課長補佐(大井孝夫君) セカンドスクールの日程につきましては、学校間で調整をいただいて、スケジュールを決めている形になります。

以上でございます。

○委員(松田 努君) 学校の希望が重なったときはどのように調整するのでしょうか。

○学務保健課長補佐(大井孝夫君) 基本的には各学校間で、校長先生同士で集まって、1年ぐらい前から調整をいただいております。規模の小さい学校につきましては、2校同時に実施する場合もございます。

以上でございます。

○教育長(浅沼昭夫君) ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、報告・連絡(2)について了承いたします。



◎府中市生涯学習センターにおける指定管理者候補者選定委員会の設置について

○教育長(浅沼昭夫君) 報告・連絡(3)を生涯学習スポーツ課、お願いします。

○生涯学習スポーツ課長補佐(宮崎 誠君) それでは、生涯学習スポーツ課から府中市生涯学習センターにおける指定管理者候補者選定委員会の設置について報告いたします。資料はございません。

生涯学習センターの管理運営については、平成25年度より指定管理者制度を導入しております。現行の指定期間が平成29年度末で満了となることから、次期の指定管理者候補者を選定するに当たり、附属機関として当該選定委員会を設置いたしました。

本来、附属機関として設置されたものについては、委員氏名や議事録等は公開が原則となっておりますが、当該選定委員会においては、申請をした団体の持つノウハウや団体の組織及び財務状況など通常は公開されない情報についても審議すること、また委員の匿名性及び意思決定の中立性を確保する必要から、府中市公の施設における指定管理者制度に関する運用指針に基づき、指定管理者を決定する指定の告示までの期間は、議事録など選定委員会に係る情報を公開しないこととされておりますので、それを踏まえまして資料なしでのご報告

とさせていただきます。

また、先月の教育委員会定例会にてご承認いただきました、当該選定委員会の委員につきましては、平成28年12月12日付けで委嘱し、任期は当日から当該選定について教育委員会の答申を予定している平成29年6月までを予定しております。

報告は以上となります。よろしくお願いいたします。

○教育長（浅沼昭夫君） この件につきましては、何かご質問、ご意見ございますか。よろしいですか。

それでは、報告・連絡（3）について了承いたします。



◎その他

○教育長（浅沼昭夫君） 日程第5、その他ですけれども、何かございますか。

○指導室長補佐（古塩智之君） その他といたしまして、指導室から1件ご報告させていただきます。

このたび、市立日新小学校が平成28年度地域学校協働活動推進に係る文部科学大臣表彰を受賞いたしました。本表彰は幅広い地域住民等の参画により、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、地域を創生する活動を表彰するものでございまして、今回全国で135団体が表彰されてございます。

東京都からの推薦依頼を受け、市内全校に対し照会したところ、日新小学校におきましては日新小スクールコミュニティ協議会の活動につきまして応募があり、府中市教育委員会として都に対し推薦したものでございます。

なお、表彰式につきましては、今月12月8日、文部科学省にてとり行われ、学校からは校長、副校長、地域コーディネーターが出席してございます。また、昨日、12月14日に市長へ表敬訪問をしてございます。

ご報告は以上でございます。よろしくお願いいたします。

○教育長（浅沼昭夫君） ほかに。

○教育部次長兼学務保健課長（堀江幸雄君） それでは、学務保健課から平成28年度東京都教育委員会表彰（健康づくり功労）の受賞についてご報告いたします。資料はございません。

本表彰は学校保健、学校安全及び学校給食の指導、運営等を通じて優れた功績がある学校関係者、学校関係団体及び組織的、計画的に幼児、児童・生徒の健康づくりに取り組む学校を表彰するものです。

平成28年度は健康づくり功労で4人の方の表彰が決定いたしました。府中第一小学校学校医岩田康人先生、小柳小学校学校医野々田昶先生、武蔵台小学校学校医崎山弘先生、府中第七小学校学校歯科医松田克一先生です。表彰される4人の皆様には、長年にわたる学校医・学校歯科医の活動のほか、学校保健における的確な指示や助言が円滑な学校運営に寄与しているものと評価されております。

一例といたしまして、インフルエンザ等における学校閉鎖にかかわる学校への適切な助言をいただいたこと、インフルエンザや嘔吐・下痢等で欠席者が多いクラスに対して休診日や早朝にもかかわらず対応していただいたこと、学校薬剤師を対象とした講話の実施をしてい

いただいたこと、教職員を対象としたアレルギー対応研修の実施をしていただいたこと、学校保健会での歯周疾患、歯科衛生、予防の周知活動などが評価されております。

なお、表彰式は、平成29年1月11日水曜日、都庁で開催されます。

報告は以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、指導室と学務保健課の2件、報告がありましたけれども、この件につきまして何かございますか。よろしいですか。

崎山委員、おめでとうございます。

◇

◎教育長報告

○教育長（浅沼昭夫君） 日程第6、教育長報告に移ります。

活動状況につきましては、別紙の「平成28年第12回教育委員会定例会 教育委員会活動報告書」のとおりでございます。

なお、この報告書は平成28年11月12日から12月9日までの活動内容となっております。

私のほうから2件、報告します。1件は、先ほど指導室から報告がありました日新小学校の文科省表彰です。本市では、第一次学校教育プランの中でコミュニティ・スクールの実現が計画されておりましたが、その困難性から独自に府中版スクール・コミュニティという理念を掲げてまいりました。学校と地域の双方向での活性化を目指すという考え方で、平成22年3月ですけれども、府中市コミュニティ・スクール検討委員会から提言がなされています。その後、平成27年3月に教育再生実行会議が第6次提言、学び続ける社会、全員参加型社会、地方創生を実現する教育のあり方についてという提言の中で、学校を核とする地域づくり、スクール・コミュニティという考え方が提言されています。府中市のほうは先にスクール・コミュニティという考え方を提唱しているということでございます。

今まで市教委の研究協力校として日新小学校が取り組んできたことが今回評価されたということで、大変喜んでおります。他の学校も徐々に、しかも確実に府中版スクール・コミュニティ、文科省のコミュニティ・スクールといった理念が実現されてきているなということを実感しております。

次の学習指導要領の理念として、社会に開かれた教育課程が示されています。従来学校が教育課程の実施において保護者、あるいは地域の方々に協力を求めてきたというこれまでの教育課程の実施でありますけれども、今後はさらに教育課程の編成、実施、評価、改善、全ての課程で参画するという、いわば協力から協働という形が出てくるのかなと思っております。府中版スクール・コミュニティがこの点においても各学校の教育内容を充実していく上で力を発揮してくれるのではないかなと期待しております。これが1点です。

2件目は、11月23日に多摩川マラソン参加の後に新庁舎建設予定地で開催されました市内小中学生対象の遺跡発掘教室を見学しました。小学生3年生以下は保護者同伴ということで、30名ほどの小学生と保護者が参加し、集中して発掘作業に取り組んでいました。

何が出てくるかというワクワク感に魅力を感じ、今まで何回か参加したという児童もいまして、大変手馴れた作業に目を引かれました。保護者が見守る中で実際に陶磁器のかけらなどを見つけると歓声上がるなど、大変寒い日でしたけれども、熱中しておりました。

どこを掘っても遺跡があると言われる本市ならではの、めったにないよい機会であり、優れた企画であったなと思っております。こうした体験により、子どもたちが府中市の歴史に関心を寄せ、ふるさと意識を高めるとともに、さらに考古学などへの興味が深まっていけばいいなと期待しているところです。

私からは以上です。



◎教育委員報告

○教育長（浅沼昭夫君） 日程第7、教育委員報告に移ります。

活動状況につきましては別紙のとおりでございます。まず、崎山委員、お願いいたします。

○委員（崎山 弘君） 活動状況の報告書の中にもありますが、12月1日、府中市美術館の「LEONARD FOUJITA 藤田嗣治展—東と西を結ぶ絵画」を観覧してまいりました。

日本でいえば明治から昭和40年代まで、繁栄と戦争が重なり合う時代で、言葉・歴史・文化・宗教が異なる日本と西洋の両方で活躍した画家である藤田嗣治。その時代の背景、かわり合う家族、社会が求める芸術と、藤田が創り出そうとする作品の相互関係などがとてもわかりやすく展示され、1つ1つの作品だけでなくそのつながり、変遷の意味を十分に理解できる展覧会で、とても興味深いものでした。木曜日の午後に伺いましたが、多くの方が来場されており、とてもよい企画だったと感じました。

今回は以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 齋藤委員、お願いいたします。

○委員（齋藤裕吉君） 私のほうからは12月4日日曜日に行われました、第21回府中市小中学生人権作文発表会に出席いたしましたことのご感想を申しあげたいと思います。

今年度も小中学生の応募合計が約1万2,000件という多数の作品の中から選ばれた24の作品が、子どもたち自身によって発表されました。小学校の3年生から中学生までのそれぞれの作品は、それぞれの年齢段階や状況に応じて人権について真剣に考えて文章表現されたものばかりで、とても感動的で、また頼もしさも感じました。

発表作品の中で、今回は障害のある人々に対する差別や偏見の問題を取りあげたものが多かったように思います。相模原の津久井やまゆり園の事件に触れたものや、自分自身や身近な人の障害にかかわることを子どもなりの人権意識で捉えた意見が述べられておりました。そのほかにも高齢者やいじめ問題、平和や人種にかかわる問題など、多様な視点で人権問題を捉えたすぐれた作品ばかりでございました。

そのような発表を聞きながら思いましたことは、人権感覚といわれる感性を磨いて、これを鋭くすること、そして人々の心やささまざまな状況をしっかり捉えられる想像力が大切なのだということです。人の喜びや痛みがわかる、共感できるという感性と想像力ということです。

今回発表してくれた24人の子どもたちは優れた人権意識を示してくれたわけですが、さらにすばらしいことは、府中市内の約1万2,000人もの児童・生徒の応募者が人権というものについて考える機会を持てたということです。年に一度でもこのように人権について考える機会を持つことで、子どもたちは人権感覚を一層磨いて、みんなが幸せに暮らせる社

会をつくっていってくれることを大いに期待したいと思った次第でございます。

私からは以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 続きまして、那須委員、お願いします。

○委員（那須雅美君） では、私からは南白糸台小学校の研究発表会参加に関しての感想を述べさせていただきます。まず、訪問前に府中市教育委員会研究協力校という制度についてあまり存じあげなかったのが、吉田指導主事に個別にご説明いただき大変助かりました。ありがとうございました。

その際に、研究協力校というのは、応募した学校がプレゼンテーションを行った上で決定するということを知ったわけですが、南白糸台小学校に来られていたご来賓の方から、「ひと昔前は応募した学校すべてが研究協力校を受けられたのに、今は4校と聞くけれども、もっと多くの学校を研究協力校にしてもらいたいね」と言われました。また、ある校長先生からは、「過去に応募したものの、指定を受けられなかったときはショックだった」とお聞きしました。

そう聞いたときには、研究協力校として指定する学校数が少ないのかと漠然と思ったのですが、後に研究協力校指定に関して今日のように至った経緯を知り、現在の協力校の数については私としては納得いたしました。

研究にはそれなりに予算の裏づけが必要であることや、指定を受けることが先生方に目の前の仕事だけではなく、しっかり研究に取り組んでいただくためのよい動機づけとなることは予想できます。しかし、研究そのものは協力校の指定を受けたからやるとか、受けなかったからやらないというものではないとも思います。

発表会当日の外部講師による講演の中に、形の上だけではなく本気で伝えて本気で聞く、本気で伝え合うことの大切さというものがありません。これは児童の育成に関して述べられたものでしたが、当日の南白糸台小学校の先生方による研究の経過や成果の発表からは本気で伝えようという先生方の気持ちを私は感じました。

当日は、市内の多くの小中学校の先生がお忙しい中、お見えでした。お見えの先生方はどれくらい本気でその授業や発表を見たり聞いたりしていらっしゃったのか、そしてよかった点を自分の学校に持ち帰り、それを授業改善に実際に取り入れようとされる学校はどれくらいあるのか少し気になりました。

府中市全体の教育の充実を考えて、指定を受けた協力校だけの研究成果として終わらせないように、また他校の管理職の先生方は発表会に形だけ足を運んだのではなく、見聞きした研究の成果を自校に取り入れ、より発展させるなど、協力校の指定の有無にかかわらず自校でリーダーシップを発揮して、学習教育の充実を図っていただきたいと思います。

また、少し話は変わりますが、南白糸台小学校には10年以上前に我が子がお世話になった先生がおられました。我が子もその先生のことが好きでしたが、今でもその先生の学級の児童はその先生のことが大好きで、「その先生のようにになりたい」と将来教師になる夢を抱く子どもが多くいると校長先生から伺いました。そのような魅力ある先生がこの府中に1人でも多く来られることを願うばかりです。

私からは以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 松田委員、お願いします。

○委員（松田 努君） 活動報告書の期間外ですが、12月11日に小学生税の書道展の表彰式に臨席しました。作品を拝見させていただき、静かで整っている字や激しさを感じる字、本当にさまざま、賞を選ぶほうは本当に大変だったなということ想像しました。

また表彰された作品は、金賞や銀賞、市長賞や教育委員会賞などたくさんあったのですが、その中で私も心の中で勝手に松田賞を選ぼうと思って探したところ、私の中で一番の作品は銅賞の作品でした。勝手に何か貼りたいぐらいのすばらしい作品でしたが、勝手には貼れないので、心の中で特別賞を貼って、そっと帰ってきました。

それから先日、府中ではないのですが、私の母校の小学校でタグラグビーの授業を行いました。今年で6年目なのですが、毎年5・6年生に教えるのですが、後日子どもたちからお礼の手紙が届くのです。その手紙を読むと、大抵の子が「来てくれてありがとうございます」から始まり、「タグラグビーは初めてで難しかった」とか、6年生は「2回目であっとうまくできた」とか書いてあるのですが、そのあとに、具体的に何が楽しかったかということが書いてあって、そこに子どもたちの個性が出るというか、様々なことが書いてありました。授業を行った私にとっては、そこが非常に興味深い部分なのですが、「トライをして楽しかった」とか、「ボールを持って走って、うまくタグをとれた」とか、そういう試合のことから、授業の前に私が実演した「パスのスピードがすごかった」など、いろいろな意見がありました。また、6年生の教室で給食を食べたのですが、普段は机を5人ぐらいでくっつけて食べているのを、その日は大きな円になって食べたので、「みんなの顔を見ながら給食を食べられたのが一番楽しかった」、「タグラグビーよりも給食がよかった」という意見まであって、そんな小さな変化にも新鮮に思ってくれたのなら行った甲斐があったなと思いました。また、空手をやっている子は「チームスポーツの、仲間とともにプレーすることを知った」とか、そういう意見をもらうと、楽しんでもらうことが一番なのですが、本当に人それぞれ感じるものが違って、それぞれの子どもたちに何か残ってくれたらうれしいなと思いました。

府中でもトップリーグの選手たちがタグラグビーやラグビーの実演などでいろいろ回っていますので、人それぞれですが、多く感じ取ってもらえたらうれしいなと思います。

最後に、手紙の中で「教え方がうまかったから上手にできた」とか、「チャイムが鳴って本当に残念だった」とか、「一生忘れません」とか、読んでいて本当ににやけてしまうぐらいストレートに伝えてもらったので、私もラグビーを教えるモチベーションは本当に上がって、自分も子どもたちからたくさん教わって、いろいろ思い出させてもらったいい機会になったと思います。

以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、これで平成28年第12回府中市教育委員会定例会を閉会いたします。お疲れさまでした。



午後3時31分閉会

以上、会議のてん末を記載してその相違ないことを証
するため、ここに署名する。

平成29年1月19日

府中市教育委員会教育長

浅沼 昭夫

府中市教育委員会委員

松田 努